

山行報告書

傾山 1605m(大分県) ベニガラ谷遡行 参加者 土橋 中山

日程

5 月 27 日(金)晴れ 北九州発→払鳥屋

5 月 28 日(土)晴れ 払鳥屋→入溪→二俣テント泊適地

5 月 29 日(日)晴れ 二俣テント泊適地→右俣→1500m稜線登山道→払鳥屋

装備 30mザイル×2 本

九州の沢と源流に、沢師、沢屋なら一度は遡ると書かれたベニガラ谷を遡行した。

仕事を終えた金曜夜に北九州を出発し、宇目町払鳥屋に向かう。途中道路工事のための通行止などもあったが、概ね 4 時間で払鳥屋に到着。林道脇に駐車して仮眠を取る。

土曜朝 6 時過ぎに駐車スペースを出発。林道を 10 分程歩き雑木林を下って傾川に入溪。しばらくは平凡な河原歩き。ルート図には営林署まではざっくりとしか書かれていないが、解説には所々滝やゴルジュ等のポイントが記載されており、解説を頼りに遡行する。河原が狭まって滝が出てくると右側にトラロープがあり容易に巻けた。沢も大きく長いナメ歩きなど期待通りの美しい溪相である。体力温存のため、なるべく滝は巻き、泳ぎを避けて行った。1 日目の中盤に差し掛かるとエメラルドグリーン淵や赤茶色の 100m のナメなど見所が連続する。昼前には営林署跡に到着。ここもノスタルジックな光景だった。営林署で 20 分程大休止して出発。ここから 1 日目の後半戦だ。営林署を過ぎてしばらく歩くと三段に見える滝が現れる。ここは右側(左岸)を高巻く。3 段目の滝は枝沢の滝である。沢に復帰してナメや小さな滝を越えてゆき午後 3 時半には二俣(ルート図では 3 俣)のテント泊適地に到着した。

到着後、すぐに焚き火にあたり暖をとった。しばしのんびりとした時間を過ごして夕食を摂った。平らな石をフライパン代わりにしてベーコンやウインナーを焼いた。焚き火に関しては着火は簡単だったが、維持に関しては課題が残った。

日曜朝はほの明るくなり起床。6 時半にはテント場を出発。解説図にかかっている本流ではなく右俣を遡行する。すぐに小さな 2 段の滝を越えると 15m くらいの滝が現れる。中段までは難しくなさそうだが、上部はよく分からない。支点も見えなかったため、巻きを決定。滝のすぐ右(左岸)のルンゼは上がすぐ壁だったため、一段低いルンゼを詰め、登れそうな斜面をザイルを使いながら登っていった。壁→トラバース→登れそうな斜面登りをロープを使い繰り返しながらようやく下降できそうな場所を見つけ慎重に周囲の状況を確認しながら下降した。この大高巻きで 3 時間を要してしまった。後で他のパーティーの記録を調べると滝の右側の草付きあたりに弱点がありそこから巻けると記載されていた。大高巻きを終えた後は順調に高度を上げた。この日は気温も高く水を浴びるのが心地よかった。堰堤状の滝を越えて 11 時半頃には水が枯れるガレ場まで登った。ここから簡単な岩場を登り、壁→トラバース→急斜面歩き(藪こぎ含む)を繰り返しながら午後 1 時過ぎには 1300m の稜線登山道に出た。

(所感) 今回は天候に恵まれ、ベテランリーダーの同行なしで上級者向けの沢の遡行を無事に終

えることができた。幸運だった。温暖化の影響か5月も後半になると気温も30℃を超す日があり、日照時間も1年で最も長く、水量も少なく、アブやヒルなどの害虫類も少ないため、南国九州ではこの時期は沢登りに非常に適しているのではないか感じた。反省点としてはもう少し他のパーティなども記録を憶えておくべきであったと思う。ベニガラ谷は山深く、脱出が困難である感じた。今回の山行は非常に良い経験になったと思うが、今後の山行も慎重を期して臨みたいと思う。



入溪直後は広い河原歩きが続く



少し水深が深くなる左岸にトラロープあり



巻けない場所は泳ぐしかない。



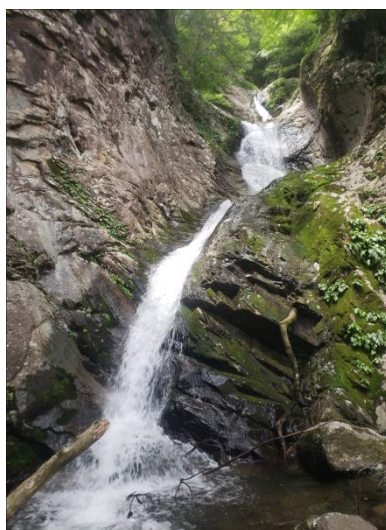
滝もやむを得ず登るしかない。



よく他会の記録に載っているきれいな淵



淵を泳ぎ離陸する土橋さん



写真左上 営林署跡で見つけた釜

写真右上 三段に見える滝 上部の滝は枝沢の滝である。

写真下 赤茶色のナメロード ベニガラ谷の謂れかも知れない。





河原の石をフライパンにした。



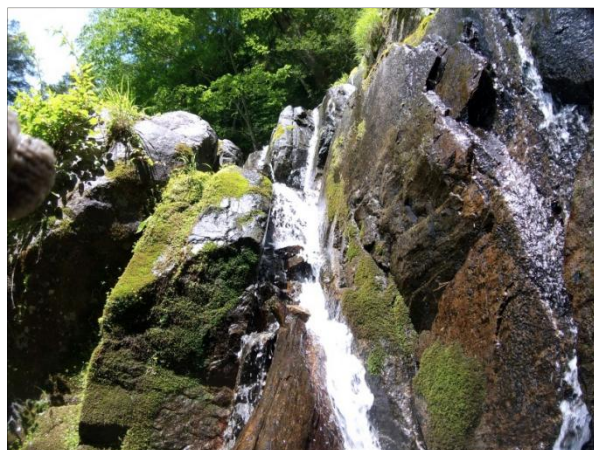
翌朝 右俣に行く。いきなり連続する滝



今回の山行ハイライトとなった大高巻した滝。右側(左岸)の草付き付近から巻けるらしい。



終盤、快適な滝登り。



堰堤状の滝を登る。



藪を抜け登山道に出て、くつろぐ土橋さん



快適な登山道を下る。

報告者 中山正浩